

進路だより クリスマス特別号

時には昔の話を

●金子みすゞさんの詩に思うこと

思い出せば今年もいろいろなことがありました。一番大きいのは、元号が変わったことでしょうか。

しかし、災害に事件、不正に隠蔽…報じられるニュースは必ずしも明るくはありませんでした。その内容も憎悪・不寛容・虚偽…見るだけで不愉快な字が並びます。

「わたしと小鳥とすずと」これを達成できる世の中はいつ来るのでしょうか。金子みすゞさんと言えば、29歳で亡くなった詩人です。皆さんも小学校の教科書で彼女の詩を学んだと思います。「みんな違ってみんないい」ほとんどの小学生がこの言葉に触れて、価値観を共有しているはずです。

しかし、近年主観的過ぎる「～なければならぬ」の暴走が過ぎていると思います。法律やマナーの「～なければならぬ」ではなく、ある狭い人たちの中で共有されている「～なければならぬ」ことから少しでも外れれば、炎上→謝罪。それを避けるために隠蔽・虚偽。皆さんの中から一人でも多く、こんな現状を変えなければならぬと思う人が出てくることを祈ります。

●悩みのある人生を

今年も年の瀬がやってきました。TVでは「今年もやってくる～」「きっと君は来ない～」が流れ出し、頼まれてもいないのに、24・25をお祝いするムードが盛り上がってきそうですね。1年ももう終わりです。何となく浮わついた世の中に乗れない人もいるかもしれませんね。世の中は目まぐるしく進歩し、人びとはそれについてくるよう求められる。乗れば戦いを求められ、乗らなければ、置いていかれる。この1年、上手くいかなかったという人もいるかもしれませんね。そんな人は中学校の教科書を開いてみてください。

物羨みは、すさまじきことなりとぞ(物をうらやましがるのは、してはいけないことだ)「宇治拾遺物語」
為さざるなり、能はざるに非ざるなり(達成できないのはしないから、出来ないのではない。)
「徒然草」

何百年も前から人間が考えていることは同じです。人の悩みは尽きません。何百年も前の作品がなぜ教科書にあるのか。それは、人として大事にしなければならぬものがあるからではないでしょうか。そう考えれば、悩むことも人生にとって必要なことなのではないでしょうか。

●ものぐさトミーとラッダイト運動

「ものぐさトミー」(ペン・テュポア作・岩波書店)、私が子どもの頃好きだった絵本です。生活を全て機械にやってもらう「トミー」少年の話です。当時は「こんな便利な家があったらいいのになー」ぐらいにしか思っていませんでした。

時は過ぎて、「30年後無くなる仕事」という言葉が出てきました。テク/ロジー・AIの発達によって、仕事は機械で出来るようになり、その仕事が無くなるというのです。「その仕事に就かなければいい」と思っている人がいるかもしれません。ですが、仕事が無くなるということは、仕事の奪い合いが起るということです。

機械・AIは24時間365日働き続ける。人間は…。どちらが多くの仕事出来るでしょう。今は主に機械のメンテナンスを人間が仕事として行っていますが、自分で自分を治せる機械が出来たら…。

200年前、産業革命で仕事が便利になった後、ラッダイト運動というのが起こりました。労働者には危機感があったのでしょうか。あなたの就きたい仕事は、30年後…。

●時には昔の話を

この号のタイトル「時には昔の話を」は、映画「紅の豚」のテーマ曲の名前です。歌詞は難しいかも知れませんが、加藤登紀子さんの優しくも強い歌声には感じるものがあるはずです。是非一度は聞いてみてください。

さて、今回のテーマは「昔」です。「10年一昔」という言葉があります。皆さんにとって「一昔」は小学校1〜3年生ですね。この時期、人によっては既に「苦手」が生まれる時期だと個人的に思います。文字を書くこと、覚えること、計算すること、人間関係を作ること等々、「出来ない」ことでそれに苦手意識が出来るのは、既にこの頃からではないでしょうか。(ちなみに私も申し訳ないですが、「友達百人できるかな♪」を歌わされるのが嫌いでした。)

人間には出来不出来と向き不向きがあるのは間違いありません。それは、仕事、勉強、スポーツあらゆる物事に当てはまります。ただ、皆さんが高校にいるのは、中身は違えど「高校に行かねばならない」と皆さんが決めたはずだからですよね。そこが小中と違うところ。

自分で決めた道なら、「苦手だろうが、不向きだろうが、やり抜かなければならない。」違いますか? 漫画で燃えるのは、「やられても立ち上がる」そんな展開ではないですか? 失敗しても前を向く。一番を取れなくても努力をする。その姿を恥ずかしがることなんかありません。努力を笑う人こそ哀れです。何のために高校生になったのか。

もしかしたら、小中のやり直しから始まるかもしれませんが、燃えてカッコよく生きてみませんか。